

## 第5回 江戸東京きらりプロジェクト推進委員会 議事概要

平成29年12月13日

### 【清水部長】

それでは定刻となっておりますので、これより、第5回「江戸東京きらりプロジェクト推進委員会」を開会いたします。

委員の皆様におかれましては、御多忙のところ、誠にありがとうございます。私は、事務局を務めさせていただいております東京都産業労働局産業企画担当部長の清水でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、本日の会議資料について御説明いたします。

本日の会議はペーパーレスで行います。会議資料は基本的にお手元のタブレットやテレビモニターに表示いたします。紙では議事次第、委員名簿、座席表のみをお配りしております。画面の切りかえにつきましては事務局が一括して行いますので、委員の皆様が操作していただく必要はございません。文字が小さくて見づらい場合や前後のページをご覧になる場合は、画面を指でなぞっていただきますとごらんいただくことができます。タブレットの操作につきまして御不明な点がございましたら、お近くの事務局職員にお声かけいただきたいと思います。と存じます。

なお、本日の会議は、知事の挨拶までをオープンとさせていただいております。プレス関係者におかれましては、御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、この後は大洞委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

### 【大洞委員長】

大洞でございます。本日も、皆様に協力をいただき、ぜひ充実した委員会にしていいただければと思いますので、よろしくお願い致します。

最初に、小池知事から一言御挨拶をいただければと思います。

### 【小池知事】

皆さん、こんにちは。今日もお忙しいところ、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。今日で5回目の委員会となります。

前回、プロジェクトのモデル事業が決定され、そして今後は磨き上げや発信の手法についても議論をしていただくということでございます。

11月、先月ですが、丸ビルでモデル事業の展示、実演、その中にはマカロンで有名なピエール・エルメも、言ってみれば創業の地は東京なのです。そういうことで、ピエール・エルメさん本人にスペシャルなスイーツをつくっていただき、そして虎屋の黒川様の御子息の専務にもお越しいただきまして、こちら私もスペシャルスイーツを頂戴させていただきました。いずれも東京の食材を使ってということで、とてもクリエイティブな、そしておいしい御提供をいただいたところでございます。

今日は、モデル事業を本格的に磨き上げていく段階に入っておりますので、体制をどうすればいいか、その手法はどうすればいいか、効果的なプロモーションはどうあるべきなのか。来年度の具体的な取り組みを御議論いただくこととなっております。

加えまして、プロジェクトに関心をお寄せいただいた多くの老舗企業の皆様方がおられまして、その方々をいかにしてうまくネットワーク化していくか。それから、技の継承につながる仕組みづくりについても御議論いただきたく存じます。

東京の「宝物」の価値、そして魅力をしっかりと発信して、インバウンドや技の継承につながるようなモデルケースを確立していくためにも、鋭くて、そして斬新なアイデアを期待しております。

ちなみに、このきらりプロジェクト推進委員会は昨年12月にスタートしたわけですが、それから考えますとちょうど1年でございます。そしてまた来年、年を越しますと、今度は東京が江戸から150年の歴史を数えるに至るというちょうど節目の年にもなるわけですが、ぜひこれをきっかけにマーケティング戦略に基づいて、しっかり東京の「宝物」、きらりと光る「宝物」を発信していきたいと思っております。

御協力のほど、よろしく願いいたします。

## 【大洞委員長】

小池知事、ありがとうございます。

本日は、先ほど御案内がありましたけれども、来年度に向けたいろいろな戦略上の問題や個別のビジネスにかかわる話もございますので、これ以降は非公開という形になります。

恐縮ですが、報道関係者の皆様は、この時点で退室をお願いいたします。

<以下、非公開で開催された内容について概要のみ記載>

### 1 発信イベントの開催結果報告

11月3日から6日まで、丸ビル1階丸キューブで発信イベントを開催し、11月4日（土）は、小池知事、ピエール・エルメ氏、黒川光晴氏が登壇したトークセッションも実施、多くの来場者があった旨報告。

### 2 プロジェクトの今後の展開に関する意見交換

- ・ モデル事業の磨き上げを行う支援チームのメンバー、東京都の役割等について説明し、了承された。委員から、磨き上げのゴールとして、各モデル事業のブランド化や実際に売れることが重要であるといった意見があった。
- ・ 発信手法について議論した。委員からは、箱物ありきは危険であるものの売る場所が必要、外国語表記は本当に理解できる現地の言葉にすること、情報更新の重要性、食にからめた製品の発信、経営が成り立って初めて継承がなされるなどの意見があり、引き続き具体的な検討を続けていくこととなった。
- ・ モデル事業だけでなく、老舗や伝統の技全体の継続に向けた、情報共有や普及啓発、機運醸成などを図るネットワークの構築について議論した。委員からは、縦割りではなく国などとの連携が必要、経営者としての教育も必要などの意見があった。

### 3 提言の骨子についての説明

- ・ これまでの委員会での議論を踏まえ、伝統ある産業と東京ブランドの持続的発展に向け、事業者の主体的な取り組みや行政機関等が取り組む方向性について、提言の骨子を提示。
- ・ 次回委員会にて素案を提示予定